

特別展「やまと絵 ー受け継がれる王朝の美ー」

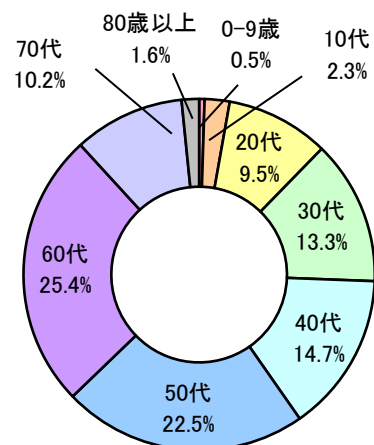
アンケート集計結果

開催期間：令和5年10月11日（水）～12月3日（日）（会期日数：48日）

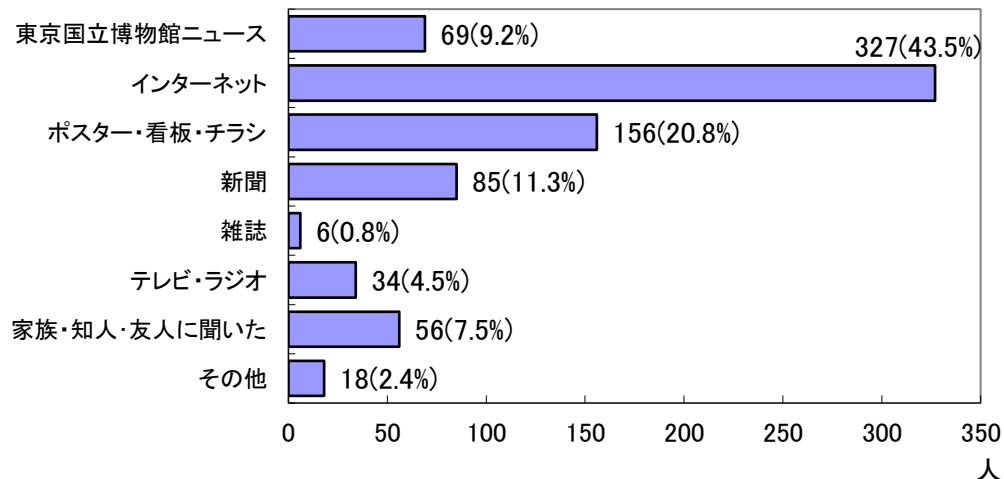
総入館者数：162,104人

回答者数：580人

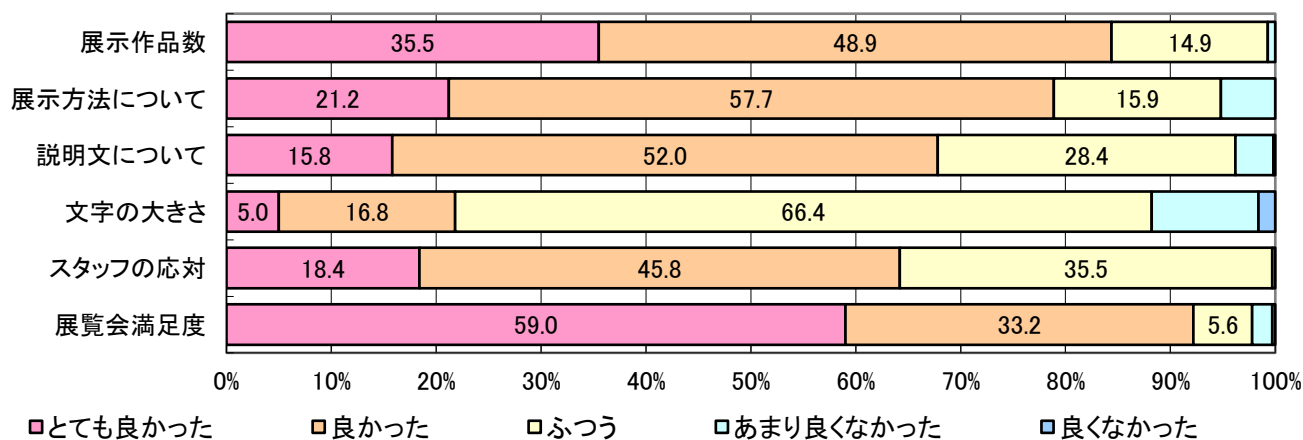
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・国宝、重要文化財や教科書で見た作品が多く見られて良かった
- ・展示作品数が多く、ボリュームがありよかった
- ・作品の主な部分・見所を拡大したパネルが掲示してあり、後列からでも確認できて非常によかった
- ・夏木マリさんの音声ガイドがとても良かった
- ・特に絵巻物の展示では人がなかなか動かず、見にくいことがあった
- ・照明が暗くて見づらかった
- ・会場内の休憩スペースを増やしてほしい

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.7	0.0
展示方法	5.2	0.0
説明文	3.6	0.2
文字サイズ	10.2	1.6
スタッフの対応	0.3	0.0
展覧会の満足度	1.9	0.3

(%)

本展は、平安時代前期に成立し、その後さまざまな変化を遂げながら描き続けられてきたやまと絵が、各時代の最先端のモードを貪欲に取り込みつつ発展していく様子を、特に平安時代から室町時代の優品を精選してご紹介するものです。「日本美術の教科書」と呼ぶに相応しい豪華な作品の数々が一堂に会する、とても貴重な機会となりました。

今回、展示作品に四大絵巻や三大装飾経、神護寺三像をはじめとして国宝・重要文化財が多数出品されていたこと、教科書等に掲載されている作品が多かったこともあり、「一度見てみたかった作品の本物が見られてよかった」旨のご感想を多くいただきました。展覧会全体の満足度も高く、本展をご覧になった92.2%の方から「とてもよかった」「よかった」との評価をいただきました。

一方で、展示替えが多かったこともあり、一度の来館では全ての作品を見ることできないため、チケットのリピーター割引のようなサービスを求める声もありました。

また、特に絵巻物の展示に関しては、人流に滞留が発生しやすく、スムーズな観覧が難しい状況に対するご意見を複数いただきました。

今回のアンケート結果を参考に、引き続き、観覧環境の向上に努めてまいります。